

「このノートブックは一番大切なものだから、長崎大学の記念館に保存してもらおう」と1962年度の研究データ、つまりクラゲの発光と蛍光物質 GFP の発見の記録ノートブック1冊を、当時の薬学部長だった黒田直敬教授に自分で直接手渡して御願いました。

長崎大学勤務中に安永峻五教授の親切な計らいで1年間の国内留学を許して頂き、この時の1年間の海ホテル研究が、その後の一生にわたる発光生物の研究につながったことを忘れないで感謝しての行為でありました。

主人の他界後、ウッズホール海洋生物学研究所からこのノートブックを所望してきましたが、「これについては本人の意向でもう長崎大学に提供しましたので、他の研究データ全部をそちらに渡します。」とお伝えしました。

主人の生涯で研究をした3箇所のうちで期間は最も短いのですが、長崎大学時代が人生で一番大切な時を過ごした場所だったので。

この長崎大学に設置される胸像が末長く若い方々を発奮させ、より一層の励みになればと願っております。

下村明美